



グレースリンク

子どもたちをわたしのもとにこさせなさい

Matthew 19:14



Grace
Worship
Community
Service



グレースリンクとは？

子どもたちのための新しい安息日学校カリキュラムです。
家庭、教会、学校が協力し合い、救いへと導く。
この考え方は決して子どもたちだけのものではありません。

なぜ、グレースリンクが必要なのか？

- 青年たちの 50%以上が教会を去っている
 - 神さまの恵みについて正しく理解していない
- 学習タイプにより効果的な学び方がある
 - 昔とはちがう誘惑の多い世界に生きている

若者を歩むべき道の初めに教育せよ。
年老いてもそこからそれることがないであろう。

箴言 22:6

神さまとの個人的な関係に導く

神さまの恵みを楽しみ、神さまに
応答することで、真の神の家族となるのです。

大切なメッセージは変わらない
しかし、それを伝える方法は新しく！

Grace Link

青年を対象にした調査で多くの若者が「救いは努力して得るものだ」と思っているという結果が出ました。この結果を受けて世界総会指導の下、世界中の専門家たちによってこのカリキュラムは生み出されました。『アドベンチスト』の大切な教理に基づき、聖書を中心としたカリキュラムが何より求められていたのです。子どもたちが積極的に参加し、神の「恵み」について学び、キリストとの個人的な関係へ導かれるように作成されています。

4つのポイント



グレースリンクではキリストチャンが成長する4つの側面に焦点を当てています。子どもたちは、聖書の教えを実際の生活に役立てることができるように導かれます。

恵み

キリストは私を愛しておられます

恵みとは、私たちに対する神さまの愛の表現です。神さまは私たちの罪をあがなうために、そのひとり子を身代わりとしてささげてくださいました。私たちに永遠の命を与え、キリストに似る者へと成長させてくださいます。

神



礼拝

私はキリストを愛します

礼拝とは、神さまの愛に対する私たちの応答です。神さまに感謝し、私の人生をキリストにささげます。祈り、礼拝、賛美、証しをするだけでなく、命じられたことに従います。実生活において与えてくださったものを賢く管理することも礼拝です。

神



交わり

私たちは互いに愛し合います

交わりとは、私たちが自分の家族、友だち、教会員と互いに愛し合い、敬い合う関係のことです。神さまの家族の一員として他の人たちを受け入れ、お互いの役割を認め合うようにします。

私



奉仕

キリストはすべての人を愛しておられます

奉仕とは、私たちが神さまからいただいたその愛をもって、まだキリストを知らない人たちに仕えることです。そして、神さまの家族の一員となるように招き、未来への希望のメッセージを伝えていきます。

私



グレースリンクの学び方

習慣づける

子どもたちは親との会話や学びを通し、安息日に習ったことを1週間かけて復習し、実践します。これによって安息日学校で学んだことが、子どもたちの信仰の成長にとって、なくてはならない役割を果たすようになります。クラスで学んだ暗唱聖句を週の間に復習し、体験した楽しい活動と関連させて子どもたちに印象づけるようにしましょう。



聖書物語の重視

グレースリンクではすべての課に、子どもたちの年齢に合わせた適切な聖書物語が含まれています。一番小さな子どもたちでも、聖書は神さまの言葉であるということを学びます。

子どもたちに、聖書が神さまの言葉であることを認識させるため、教師はその週の聖書物語の基となる聖句を教えるとき、しっかり聖書を開いてその箇所を指し示します。このことによって子どもたちは、物語が聖書に基づいているということを確認できます。そればかりでなく、物語の背景などを知り、さらに深い学びへと導かれていきます。子どもたちは大きくなるにつれて聖書物語からより多くのことを学び、与えられた教えを生活に適用するため、日ごとの個人的な聖書の学びへと心が向くようになるでしょう。

能動的に学ぶ

ただ聞くだけでなく、五感を使って体験的に学びます。子どもたちは体験することによって、記憶を深めることができます。

5%~ 10%



話を聞く・読む

20%~ 30%



視覚メディア

40%~ 60%



ロールプレイ

80%~ 90%



実際の体験

子どもによって学び方はさまざまです。学ぶという活動には、いままでのような1つの方法(話を聞く)だけでなく、いろいろな方法が含まれていなければなりません。『聞く』『見る』『体験する』ことを取り入れた活動を通して、積極的に学ぼうとする活気ある雰囲気が育っていくのです。



話し合いが大切

能動的学習に参加したあと、子どもたちに感想や意見を尋ねます。子どもたちに自ら考えさせることで、より積極的な学びに導くことができます。このことによって子どもたちは、自分が学んだことをより深く理解し、実生活に適用していくことができるようになるでしょう。

- 感想 あなたはどう感じましたか？
- 理解 あなたにとってどんな意味がありますか？ あなたは何を学びましたか？
- 適用 学んだことについてあなたは何かができますか？



テーマを1つに

グレースリンクでは、安息日学校のすべての時間を子どもたちを教えるために使い、活動や作業が、その日の中心メッセージにつながるようにします。聖書の真理を正しく、適切に子どもたちに教えるため、その課の目標、なすべき活動、作業などが具体的な注意と共に記されています。各課のプログラムのすべてが、最初から最後まで1つのテーマに沿って学べるように構成されています。

各課には、子どもたちが学んだことを他の人（家族、友だち、先生、親戚、近所の人、その他子どもたちがよく接する身近な人たち）に伝えたり、話したりする分かち合いのコーナーがあります。「分かち合い」のために、その人にプレゼントする物を、子どもたちが安息日学校で作ることもあります。作った物を相手の人に渡しなが、子どもたちは安息日学校で学んだことを話し、分かち合うのです。究極的なゴールは、子どもたちが学んだことを人に伝えたり、証ししたりすることに慣れ、やがて生涯を通してその働きを続けていくようになることです。

グレースリンクプログラム

グレースリンクではプログラムの内容を4つの部分に分けることができます。また教師用にはそれぞれに参考になる活動のヒントが掲載されていますので、教師がいちから活動を考える必要がなく、クラスを容易に構成できます。

① 導入（始めよう）

■なにをやるの？

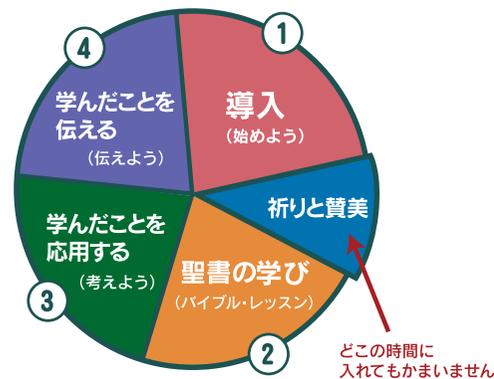
子どもたちに「活動」を通して、実際に参加する体験を与えます。各課のテーマを、創造性豊かな楽しい方法で子どもたちに伝えることができます。これによって、これから学ぶ聖書物語のポイントを受け入れられるように子どもたちの心を準備します。

*話し合い 「活動」のあとには、必ず子どもたちと話し合います。

② 聖書の学び（バイブル・レッスン）

■なにを学ぶの？

聖書の物語を体験する時間です。主題である物語を学び、聖句を暗唱し、神さまの言葉に耳を傾けます。子どもたちが能動的に学べるように工夫しましょう。



③ 学んだことを応用する（考えよう）

■どうするの？

学んだことを復習します。神さまが自分に何を伝えようとしておられるのかを考え、毎日の生活にどのように生かしていくことができるのかを考えます。

④ 学んだことを伝える（伝えよう）

■どうやって？

学んだことを他の人のために用いるにはどうしたらよいかを考えます。グループでプロジェクトを計画したり、学んだことをだれかに伝えたり、他の人に暗唱聖句などを伝えるために何かプレゼントを作ったりします。

祈りと賛美について

伝道地便り、献金、賛美、祈りは、安息日学校の大切な1部です。全体の流れや必要に応じて、最もふさわしいと思うタイミングで入れるようにしましょう。賛美は随所に入れてもかまいません。

全体で30分しか時間がとれない教会でも、安息日学校のプログラムは「①導入」から始めることをお勧めします。
(時間構成の例) ① 5分⇒ ② 15分⇒ ③ 5分⇒ ④ 5分

グレースリンクの学びを通して子どもたちは、学んだことをどのように自分の生活に役立てたらよいか、自分や家族、また友だちのためにどのようなことができるのか、と常に考えるようになると共に必要な決断を下せるように導かれていきます。



「子どもたちにこれらの教訓を教え、彼らの記憶にきざみこむには、実物教訓や黒板や地図や絵などを用いることが役に立つであろう。親も教師も、進歩した方法をたえず研究しなければならない。聖書を教えるには、最も新しい思想と最も良い方法と最も真剣な努力がなければならない。」

グレースリンクシリーズ



イエスさまだいすき
(小学校下級用・全12冊)
旧約から新約まで聖書の基礎を学びます

イエスさまとっしょ
(小学校上級用・全12冊)
テーマごとに4つのポイントを学びます

チルドレン・ミニストーリー
グレースリンクの理念について
もっと深く学べます



グレースリンクに対応した 幼児科・幼稚科教材が発行予定!

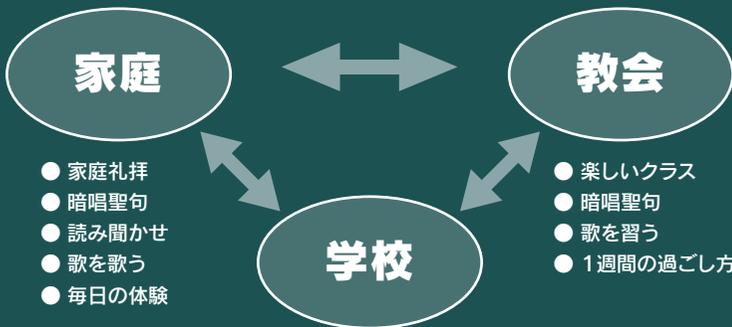


- 子ども用のフルカラー教材
- 家庭での読み聞かせに最適
- 家庭礼拝のヒントがたくさん
- 物語にそった楽しい歌が満載
- わかりやすい教師用
- 歌入りのCD

幼児科2年サイクル(1期3話)
幼稚科2年サイクル(1期13話)
各子ども用・教師用



家庭・教会・学校との連携



※ パンフレットの内容を詳しく説明したDVD (2010年1月発行) とあわせてご覧ください

